

記者会見

日時 令和7年7月29日(火)

午前10時から

場所 市役所3階 大会議室

1 千年未来工芸祭2025について

(クラフトフェス実行委員長 清水聡氏)

- ・千年未来工芸祭は、作り手との交流を通して、工芸の魅力を伝え、工芸や手仕事を身近に感じてもらうことで、工芸を未来に繋いでいくためのイベントで、今年で8回目の開催になります。
- ・昨年は、157の事業者が集結し、2日間で約1万2千人の来場がありました。
- ・お子様連れのご家族や女性の来場者も多く、伝統工芸に親しみを覚えてもらうきっかけになっているものと感じています。

- ・今年の千年未来工芸祭についてご説明いたします。
- ・開催日時は、8月30日、31日の2日間で、1日目は11時～18時、2日目は10時～17時までです。
- ・いずれも、最終入場時間は終了の30分前となっています。

- ・会場は「越前市アイシンスポーツアリーナ」をクラフトマーケットとワークショップエリア、「まさかりどんの館」周辺をオアシスエリアとして、3つに分けてプログラムを実施します。
- ・アイシンスポーツアリーナに配置されたクラフトマーケットエリア、ワークショップエリアでは、全国各地の工芸、ハンドメイドクラフト、ファッション、アート、アクセサリーなどの作り手が集結し、今年も夜市をモチーフとした非日常的な空間で、特別な逸品や子どもから大人までが楽しめる体験ブースが並びます。
- ・「まさかりどんの館」館内・周辺エリアでは、加工食品ブースやキッチンカーを集結させ、来場者のみなさんを食でおもてなしします。
- ・今年は、過去最多となる198事業者の方に出展いただくことになり、昨年より、さらに大きな賑わいとなることを期待しています。

(クラフトフェス実行委員会プロデューサー 内田裕規氏)

- ・今年は、「祭」への原点回帰をテーマに掲げ、クラフトや伝統工芸の本質に立ち返る構成としました。
- ・クラフトと食のブースを明確に分け、それぞれの魅力を感じていただけるように工夫しています。
- ・メインアリーナには「職人による実演ブース」を設けます。
- ・来場者の皆様は、職人の手仕事を間近でご覧いただきながら、直接話を聞くことができ

ます。

- ・普段なかなか目に触れることができない技術や道具の使い方などを、細部までご覧いただける貴重な機会です、ものづくりの奥深さを体感していただけます。
- ・次に、「若手職人チャレンジ作品発表」では、今年は丹南地域の5産地に呼びかけを行い、そのうち4産地の越前漆器・越前和紙・越前打刃物・越前箆笥から、14名の若手職人が参加します。
- ・自らのアイデアで制作した作品や製品を展示・販売いたします。
- ・伝統を受け継ぎながらも、若手ならではの感性が光る製品の数々をぜひお楽しみください。
- ・さらに、出展者の海外販路開拓を支援する取り組みとして「新世界工芸網」を実施します。
- ・今回は、香港と台湾からバイヤーが来場予定です。
- ・香港からは、ライフスタイルショップ「MID WAY」を運営する Pan Tang 氏、台湾からは、元・誠品書店のシニアアシスタントマネージャー張曉玲(CHANG HSIAOKING)氏が来場し、会期中に各ブースを巡回し、視察と個別商談を行います。
- ・出展者にとっては、海外市場のトレンドやバイヤーの声を直接聞ける機会となります。
- ・この機会を最大限に活用していただき、出展者の方々の商品が、世界に広がる第一歩となることを期待しています。

(クラフトフェス実行委員長 清水聡氏)

- ・モノづくりに関心のある方も、まだない方も、これからの工芸を感じていただきたいので、ぜひ、千年未来工芸祭に足を運んでいただき、工芸や作り手のことをより深く知っていただきたいと思います。
- ・ご来場いただいた皆様に楽しんでいただけるよう、実行委員会一同頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(山田市長)

- ・千年未来工芸祭は、越前市が誇る伝統工芸である越前和紙、越前打刃物、越前指物の各組合のご協力のもと、本日ご出席の清水実行委員長を筆頭に、これからの産地を担う若い職人の方々に組織された実行委員会で企画、準備をしてきていると伺っています。
- ・また、企画等のプロデュースは、株式会社ヒューズの内田様をはじめ、たくさんの方のお力添えをいただいております。
- ・みなさんに、敬意と感謝を申し上げます。
- ・去年は、2日間で約1万2千人が来場しました。

- ・本市の誇る伝統工芸、あるいは全国から色々な工芸品が集まってきますので、それらに触れ、また、アリーナ内の雰囲気もすごく良いので、多くの方に楽しんでいただいていると思います。
- ・今年は、「祭」への原点回帰ということで、クラフトと食のエリアを分けるということであり
- ・去年を上回る、180を超える出展者の方が参加されるということで、これまで以上に魅力のあるイベントになると思います。

2 国際政治学者若泉敬顕彰特別講演会について

(山田市長)

- ・戦後 80 年、それから若泉敬先生が誕生して 95 年、また市制 20 周年ということで、本市横住町出身の若泉敬先生を顕彰する講演会を、9 月 18 日に、いまだて芸術館で開催いたします。
- ・特に、未来を担う子供たちが、自分の生き方とか将来の進路を選択する上で、ぜひ聞いていただきたいということで、南越中学校の 3 年生を特別に招待します。
- ・講演者は、かつて若泉敬先生の書生をし、若いころから身近に接しておられた谷内正太郎先生です。
- ・谷内先生の高い志、あるいは、今の不穏な国際情勢の中で、世界の中の日本、あるいは、福井、越前というものを、子どもたちに考えるきっかけにして欲しいということで、お願いに参りました。
- ・節目の年でもありますし、我々日本人が忘れてはいけない問題だということで、中学生を中心に講演をお願いしたところ、快くお引き受けをいただきました。
- ・実は、中学校1年生のときに、南越中学校で若泉先生の講演をお聞きしたことがあります。
- ・若泉先生がふるさとの中学生に対して講演をされ、当時の学校新聞にも載っています。
- ・さすがに、中学 1 年生だったので話された中身はあまり覚えていないのですが、緊張感というか、緊迫感というか、凜とした雰囲気を感じたのを思い出しました。
- ・内容につきまして、若泉先生をご紹介するテレビドラマを事前に30分ほど流し、そのあと講演をしていただきます。
- ・さらに、若泉先生の歎願状を寄贈することから、それに対するメッセージを沖縄県公文書館をお願いしたいと思っています。
- ・当日は、200 セット限定で、若泉先生が愛用された原稿用紙と、レターヘッド、便箋をお分けし、若泉先生を偲んでいきたいと思っています。

- ・関連展示として、沖縄へ寄贈予定の嘆願状も、会場に展示をする予定です。
 - ・また、『他策ナカリシヲ信ゼムト欲ス』に関する英文の初版原稿のゲラや、英訳版を合意した議事録、愛用の手帳なども、関係者にお借りをして会場に展示をする予定です。
-
- ・歎願状は、1994年の沖縄慰霊の日に、若泉先生が沖縄県民あるいは当時の沖縄県知事大田昌秀さんに宛てたもので、密約に関する謝罪をしたためたものです。
 - ・現在所有されている男性の方の意向もあり、市が仲介をし、沖縄に寄贈することになっています。
-
- ・中学生中心ではありますが、地元の市民の皆様にも、郷土に立派な方がいること、その方の平和に対する貢献や誇りというものを、ぜひ知っていただきたいと思っています。

【質疑応答】

Q

- ・来場者に無料配布される「特別資料」とは、どのようなものでしょうか。

A（奥谷文化県都推進課長）

- ・若泉先生に関する冊子、資料です。
- ・谷内先生に、特別にコラムを執筆していただきました。
- ・そのほか、大阪観光大学の森田教授からもコラムをいただきました。
- ・これらを記載した資料になります。

Q

- ・講演される先生と若泉さんの関係を教えてください。

A（奥谷文化県都推進課長）

- ・谷内先生は、東京大学に在学中、東京の若泉ご夫妻のご自宅に書生として寝食をとみにしていたそうです。
- ・ちょうど若泉先生が沖縄の密約に関して奔走していた時期ですが、当時、そのような様子はなく、谷内さんも全く気付かないぐらい、影で動いていたそうです。
- ・思い返せば、当時大変そうな様子だったのは、そのようなことがあったからではないか、ということも、谷内先生から講演会でお話しいただけるのではないかと思います。

3 夏のスポーツイベントについて

(1) スマートフェンシング体験&折れ剣再生プロジェクトで学ぶフェンシングとSDGs (山田市長)

- ・見延和靖選手監修の親子参加型イベント、スマートフェンシング体験&折れ剣再生プロジェクトで学ぶフェンシングとSDGsを8月9日に開催します。
- ・当日は、見延選手のほか、東京2020オリンピックで金メダルを獲得した宇山賢さんをお呼びします。
- ・オリンピックのお二人から指導を受ける、接する機会となります。

- ・誰でも簡単に操作ができるスマートフェンシングを、見延選手、宇山さんの直接指導により体験ができます。
- ・見延選手と宇山さんのエキシビジョンマッチも行います。
- ・さらに、折れたフェンシングの剣を再生して、メダルにしたり、包丁にしたりする折れ剣再生プロジェクトにご協力いただいた武生特殊鋼材の河野さん、高村刃物製作所の高村さんを招いて、越前市の産業についてもお話しいたします。

(2) Sports Summer Festival with e☆SPARKLE

(山田市長)

- ・4月に本市出身のアスリート5人で発足したe☆SPARKLEのスポーツ体験イベントを、8月11日に開催します。
- ・改めてメンバーをご紹介します。佐藤 希望さん、村上 めぐみさん、中島 康晴さん、野村 有香さん、田中 悠登さんの5人です。
- ・世界の舞台、あるいは日本全体を巻き込んで盛り上げてこられたトップアスリートと直接出会う機会になります。
- ・それぞれの専門種目の体験ブースを作り、スポーツの楽しさを体験していただくイベントになります。
- ・トークショーでは、参加者の皆さんから質問をいただき、それにお答えしていただきます。
- ・紙飛行機を飛ばすイベントでは、キャッチした人にプレゼントをお渡しします。

- ・この5人は、本市の宝ですし、ふるさとのために頑張ろうという非常に高い志は、ありがたいことです。
- ・地元の子どもたちのために、未来に夢と希望を持って頑張る子どもたちを応援しようということで、春にe☆SPARKLEが発足しましたが、最初の本格的なイベントですので、どうぞよろしくお願いいたします。

(中島康晴選手)

- ・e☆SPARKLEというチームを通して、このサマーフェスティバルの機会に、多くの方に、スポーツを通じて、楽しさを知ってもらったり、色々なスポーツがあることを知ってもら

ったりしたいと思っています。

- ・色々な協議のトップアスリートがメンバーを組んでイベントを行うのは、全国的にも珍しいケースだと思っています。
- ・チームを作ることも、このようなイベントを開催できることも、奇跡的だと思っています。
- ・このサマーフェスティバルに来た子どもたちが、将来トップアスリートに育っていく瞬間を見ることができればいいなと思っています。
- ・ぜひ皆さんにお越しいただければと思っています。

(田中悠登選手)

- ・私は、越前市で毎年 11 月に行われている菊花マラソンがきっかけで陸上競技を始め、最後は、夢の箱根駅伝で優勝することができました。
- ・もともと小児喘息があり、体育も見学をしているような幼少期でしたが、身近にスポーツに触れ合うきっかけがあったからこそ、少しずつ治療をして治していくことができました。
- ・皆さん、運動が得意、苦手というのはあると思いますが、スポーツに身近に触れることで、スポーツって楽しいんだな、体を動かすのって楽しいんだな、というのを感じて欲しいと思っています。
- ・選手として活躍するだけでなく、例えば、スポーツトレーナーや栄養士になるなど、色々なスポーツへの携わり方、貢献の仕方というのがあると思います。
- ・まずは、スポーツを通じて小中学生が、こういった種目があるんだ、こうやって体を動かすのは楽しいんだ、というのを感じてもらえる、そのようなきっかけづくりになればと思っています。
- ・たくさんの中小学生の皆さんの参加をお待ちしています。

(中島康晴選手)

- ・今回のイベントは、本当に多くの方のサポートを受けて開催することができています。
- ・我々のチームは、市長に監督を務めていただいています。
- ・このような体制も本当にありがたいことですし、一丸となって市を盛り上げていきたい、市の魅力をスポーツを通して伝えていきたいと思っています。

【質疑応答】

Q

- ・フェンシングの折れ剣再生プロジェクトは、いつ頃始まったのでしょうか。また、全国的な取り組みでしょうか。それとも、越前市独自の取り組みでしょうか。

A (山口産業観光部理事)

- ・折れ剣再生プロジェクトは、見延さんが発起人です。
- ・これまでずっと産業廃棄物として廃棄されてきたフェンシングの折れた剣を、何とか再

利用したいという志を持った見延さん、越前市、それから日本スポーツ SDGs協会が、3 者で、リサイクルに向けた一歩を踏み出そうと、令和 4 年度にガバメントクラウドファンディングを実施し、約 500 万円が集まりました。

- ・令和 5 年度は、高村刃物製作所さんが、折れた剣を叩いて伸ばすだけでした。
- ・そこに、市内の金属加工業者である武生特殊鋼材の技術が加わり、溶解して、より分厚いメダルを作るに至りました。
- ・令和 4 年から始めて、いま 3 年目になります。

Q

- ・折れ剣は、どのくらい発生しているのでしょうか。

A（山口産業観光部理事）

- ・正確な数字は把握していませんが、見延さんは、日本代表の練習施設で発生した剣を回収しており、年間数百本が集まっています。

Q

- ・e☆SPARKLE のイベントでは、外に出て子どもたちと一緒に走ったり、自転車をしたりするのでしょうか。

A（中島康晴選手）

- ・ぜひそうしたかったのですが、夏の開催ということで、室内で完結できるようになっています。
- ・自転車のホームトレーナーのようなものがあり、それに据え付けた状態で自転車に乗ったり、自転車の実物に触れてもらう機会を設けられればと思っています。

A（田中悠登選手）

- ・私も、体育館の中でプチ駅伝を開催したり、工夫を凝らした鬼ごっこのような、ゲーム感覚で走ることを楽しんでもらおうと考えています。

A（中島康晴選手）

- ・難しいものではなく、楽しく参加してほしいという点をコンセプトに、各ブースで体験会ができればと思っています。